

〔青森中央学院大学開学20周年記念〕

青森中央学院大学開学20周年記念講演事業

青森中央学院大学は、「愛あれ、知恵あれ、真実(まこと)あれ」の建学の精神のもと、日本で初めての経営法学部を擁する国際色豊かな大学として1998年に開学した。2004年には大学院地域マネジメント研究科が、さらに2014年には看護学部、そして開学20周年となる2018年、別科助産専攻が開設された。

この間、国際的な視野を持ち、地域に貢献できる人材の育成をめざし、各学部、各専門分野の教育・研究活動を推進してきた。開学20周年の節目となる2018年、これを記念し、式典、祝賀会、出版、記念講演ほか各事業が行われた。いずれも、多くの関係者、一般市民に足を運んでいただき、地域の特性や時宜にかなったテーマのもと活発な議論が展開された。

I. 国際歴史シンポジウム「グローバル化の中の東北と近代移行期の「音」文化」

【第1日目：シンポジウム】

講師 デビット・ハウエル (David L. Howell) 氏 (ハーバード大学教授)

演題 「津軽海峡から世界へ」

日時 平成30年7月21日(土) 14時～16時

場所 青森中央学院大学 学術交流会館2階921講義室

主催 青森中央学院大学

共催 国立歴史民俗博物館

後援 東奥日報社、青森県(環境生活部県民生活文化課県史編さんグループ)

【第2日目：研究報告と討論—近代移行期の「音」文化】

日時 平成30年7月22日(日) 10時～15時30分

場所 青森中央学院大学2号館3階233講義室

座長 浪川 健治 氏(筑波大学名誉教授)

研究報告1 山下 須美礼 氏(帝京大学准教授)「東北のハリストス正教と音楽」

研究報告2 鈴木 啓孝 氏(熊本大学准教授)「士族の近代と東北」

研究報告3 武内 恵美子 氏(京都市立芸術大学准教授)「弘前藩と音楽」

総合討論「グローバル化の中の東北と文化を考える」

ディスカッサント	デビット・ハウエル氏
	河西 英通 氏 (広島大学教授)
	浪川 健治 氏
	古家 信平 氏 (筑波大学名誉教授)
コメンテーター	谷本 晃久 氏 (北海道大学教授)
	木村 直也 氏 (立教大学特任教授)
司会	北原 かな子 (青森中央学院大学看護学部教授)

概要

青森中央学院大学主催による本国際歴史シンポジウムは、「グローバル化の中の東北と近代移行期の「音」文化」をテーマとして、国立歴史民俗博物館との共催により二日間に渡って開催された。これは日本学術振興会科学研究費補助金の助成を得た研究「近代移行期における「音」と「音楽」—グローバル化する地域文化の連続と変容—」(基盤B、課題番号15H03232、2015-2018、研究代表北原かな子)の成果公開の一環であり、また国立歴史民俗博物館基幹共同研究である「学知と教育から見直す近代日本の歴史像」(研究代表、樋口雄彦)メンバーの参加も得て行われたものである。初日は「グローバル化の中の東北」をテーマとした基調講演と特別演奏で、基調講演は海外における日本史研究の第一人者であるハーバード大学・東アジア文明学部長デビット・ハウエル教授により、「津軽海峡から世界へ」と題して行われた。また、特別演奏は、京都市立芸術大学の武内恵美子准教授の古琴演奏で、弘前藩や会津藩にゆかりの深い「流水」「陽関三疊」「伊勢海」が演奏された。初日は県内だけではなく、京都や東京など全国各地からの参加者も含めて約320名が聴講した。二日目は、午前中に「近代移行期の音文化」についての研究報告が行われた。熊本大学の鈴木啓孝准教授、帝京大学文学部の山下須美礼准教授、京都市立芸術大学の武内恵美子准教授により、科研費助成により進めた研究の成果が報告された。また午後は「グローバル化の中の東北と文化を考える」と題した総合討論で、東北研究の第一人者である広島大学大学院文学研究科の河西英通教授をディスカッサントに迎え、筑波大学名誉教授浪川健治氏を座長として、前日に基調講演を行ったハーバード大学のデビット・ハウエル教授、筑波大学名誉教授古家信平氏、国立歴史民俗博物館の共同研究メンバーである谷本晃久北海道大学教授、木村直也立教大学特任教授らによって白熱した議論がかわされた。二日目は研究者を対象とした内容であったが、一般市民も含めて約60名の参加者があった。なお、基調講演も含むシンポジウムの内容については p.103を参照されたい。

2018年 7月21日(土) 14:00-16:00

グローバル化の中の東北

場所 青森中央学院大学学術交流会館二階

次第 挨拶：青森田中学園理事長 石田憲久
挨拶：青森中央学院大学学長 花田勝美
趣旨説明：北原かな子(青森中央学院大学教授)



基調講演 ハーバード大学教授・同大学東アジア言語文明学部長
デビット・ハウエル

津軽海峡から世界へ

14:20-15:20
※講演は日本語で行われます。

古琴演奏 武内恵美子(京都市立芸術大学准教授)/近世東北の楽(『流水』・『伊勢海』) 15:30-16:00



申し込み制(お席に限りがありますので、お早めにお申し込みください)

問い合わせ先 青森中央学院大学研究支援・地域連携課 TEL.017-728-0131 kenkyushien@aomoricgu.ac.jp
主催 青森中央学院大学 共催 国立歴史民俗博物館 後援 東奥日報社、青森県(環境生活部県民生活文化課県史編さんグループ)

2018年 7月22日(日) 10:00-15:30

研究報告と討論 — 近代移行期の「音」文化

(日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究B「近代移行期における「音」と「音楽」—グローバル化する地域文化の連続と変容—」課題番号15H03232 成果報告)

会場 青森中央学院大学2号館 **聴講自由**

座長 浪川健治(前筑波大学教授)

報告1 山下須美礼(帝京大学准教授) 東北のハリスツス正教と音楽 10:00-10:40

報告2 鈴木啓孝(熊本大学准教授) 士族の近代と東北 10:40-11:20

報告3 武内恵美子(京都市立芸術大学准教授) 弘前藩と音楽 11:30-12:10

コメント 古家信平(前筑波大学教授) 12:10-12:30

総合討論 グローバル化の中の東北と文化を考える 13:30-15:30

司会 北原かな子

ディスカッション デビット・ハウエル、河西英通(広島大学教授)、浪川健治、古家信平

コメンテーター 谷本晃久(北海道大学教授)、木村直也(立教大学特任教授)

※この総合討論は前日の講演に続き、東北とグローバル化の問題を近代・近世・民俗の視点から考えます。東北研究を専門とする河西英通教授をディスカッションに迎え、シンポジウム発表者および国立歴史民俗博物館共同研究「学知と教育から見直す近代日本の歴史像」(研究代表 樋口雄彦)メンバーとの合同で行われます。

東北は戊辰戦争の敗北によりさまざまな劣位に置かれました。東北のグローバル化はその戊辰戦争をめぐる世相の中で行われており、人々が海外に目を向けた背景にこうした社会事情を抜いて考えることはできません。本シンポジウムでは初日に海外の研究者が東北をどう見たのかという視点から、東北とグローバル化の問題をみて行きます。

続いて2日目は「音・音楽文化」にフォーカスし、近代移行期の東北においてどのような音文化や音楽の現象が生じたのか、当時の人々の豊かな生活像と文化のありようを明らかにしていきます。最後に総合討論としてグローバル化の中の東北と文化の問題について議論します。



Ⅱ. ワーク・ライフ・セミナー「自分を仕事にする生き方」

講師 はあちゅう氏（ブロガー・作家）
日時 平成30年10月13日（土）13時30分～15時
会場 青森中央学院大学7号館1階フリースペース
主催 学校法人青森田中学園 A-girl プロジェクト

概要

「なりたい自分」になり、「人生を最高傑作」に変えるには

「女子力 A-girl プロジェクト」は、青森田中学園設置校で学ぶ女子学生の学生生活満足度向上を目的として2014年に発足した学園プロジェクトである。これまで、運動部の活動応援による学生同士の交流促進や、日常の生活改善を目指す運動プロジェクトや環境整備プロジェクトを実施してきた。また「プロフェッショナルの輪」と題した座談会を開催し、さまざまな分野で活躍しているプロフェッショナルなゲストと共にキャリアづくりを考える活動も行っている。今回は開学20周年記念として、作家・ブロガーとして活躍する、はあちゅう氏に、ご自身の経験や「自分を仕事にする」極意について講演いただき、夢に向かって地域で楽しく生きていく方法を考える公開セミナーを開催した。

北海道、秋田、宮城など県内外から90名を超える一般市民や学生が来場し、「なりたい自分になること」、「自分らしさとは」など、はあちゅう氏の目標達成までの行動や思考の方法について熱心に聴き入っていた。

また、このセミナーは、「女子力 A-girl プロジェクト」の存在や、その目的・意義、本学園の学生と教職員の活動を一般の方々にも周知できる貴重な機会となった。



青森中央学院大学
Aomori Chuo Gakuin University



はあちゆうさんがやっています！

青森中央学院大学に



講師 プログラマー・作家
はあちゆう氏

〈プロフィール〉

プログラマー・作家。「ネット時代の新たな作家」をスローガンに読者と直接つながって言葉を届ける未来の作家の形を模索中。

著作に「とにかくクワッなOLの、人生を変える1か月」「半径5メートルの野望」、「通りすがりのあなた」など、月間課金制マガジン「月刊はあちゆう」が好評。

自分を 仕事にする 生き方

参加費
無料



青森中央学院大学開学20周年記念 ワーク・ライブ・セミナー

「なりたい自分」になり、「人生を最高傑作」に変えるには一
学生時代の経験や、「自分を仕事にする」極意についてお話していただき、
夢に向かって地域で楽しく生きていく方法を考えます。

2018年

10/13(土) 13:30 - 15:00

場所

青森中央学院大学 7号館1階 フリースペース
(青森市横内神田12番地)

対象

学生、中・高生、一般
(定員100名)

お申し込み
お問い合わせ

〈青森中央学院大学 地域連携課〉

☎ 017-728-0131

FAX 017-738-8333

メール koukaikouza@aomoricgu.ac.jp

HP http://www.aomoricgu.ac.jp



女子力A-girlプロジェクトでは、
女子学生の学生生活満足度向上の
ため、様々な企画を行っています。

〈主催〉青森中央学院大学(女子力A-girlプロジェクト)

Ⅲ. 教育フォーラム「人口減少が続く地域社会における教育の在り方を考える：
『高校魅力化』による地域活性化の方策を探る」

日時 平成30年10月14日（日）13時～16時30分
会場 青森中央学院大学 学術交流会館921講義室
後援 青森県教育委員会、秋田県教育委員会、岩手県教育委員会、青森県市長会、青森県
町村会、青森県 PTA 連合会、青森県高等学校 PTA 連合会
平成30年度青森学術文化振興財団助成事業

【基調講演】

講師 藤岡 慎二 氏（株式会社 Prima Pinguino 代表取締役、北陸大学教授）
「教育の魅力化による地域の活性化～全国に広がる高校魅力化プロジェクト～」

【パネルディスカッション】

「地域における高校の存在意識は、そして高校魅力化のために地域が果たす役割は何か」

パネリスト 大久保 聡 氏（秋田県羽後町教育長）
佐藤 敦士 氏（岩手県西和賀町教育長）
柿崎 悦子 氏（山形県立小国高等学校長）
山本 晴美 氏（青森県田子町長）
コーディネーター 高橋 興（青森中央学院大学経営法学部教授）

概要

基調講演では、島根県立隠岐島前高校をはじめ統廃合寸前の小規模校を魅力化し、復活させるプロジェクトを長野県、大阪府など全国で実施した藤岡氏に、高校魅力化による地方創生や地域活性化、人材育成の一方策について、豊富な実績、実例の紹介とともに講演いただいた。

少子高齢化や人口減少、自治体の財政難などにより、全国の地方の学校は統廃合や小規模化を迫られている。藤岡氏からは、学校の有無や高い教育機能が人口の増減に影響を与えているというデータ、および、自身が関わる全国でのプロジェクトでの事例や知見から、魅力ある教育環境の構築・整備が子育て世代の地方への移住を促し、地域を活性化する政策となり得ることが具体的に提示された。

続いて、青森県田子町の山本町長、岩手県西和賀町の佐藤教育長、秋田県羽後町の大久保教育長、山形県立小国高等学校の柿崎校長を交えパネルディスカッションが行われた。小規模高校と地域の現状と課題、具体的取り組みに関する各報告を受けて、地方における教育の在り方について活発な議論が展開された。



人口減少が続く地域社会における学校教育の在り方を考える

「高校魅力化」による 地域活性化の方策を探る

日時 平成30年**10月14日** (日) 13:00~16:00

会場 青森中央学院大学 学術交流会館2階 (青森市横内字神田12)

プログラム 開会挨拶・趣旨説明 (13:00~13:10)

第1部 基調講演 (13:10~14:00)

「教育による地域の活性化 ～全国に広がる高校魅力化プロジェクト～」

講師/北陸大学教授
株式会社Prima Pinguino代表取締役 藤岡 慎二氏



藤岡 慎二 (ふじおか しんじ) 氏
株式会社 Prima Pinguino 代表取締役・北陸大学教授
2006年に現(株)PrimaPinguinoを設立。キャリア教育事業、推薦・AO入試事業を中心に事業を拡大。島根県立隠岐島前高校魅力化プロジェクトをきっかけに全国で教育による地域の活性化を行う。総務省地域力創造アドバイザー・慶應義塾大学SFC研究所上席研究員・OECD日本イノベーション教育ネットワーク連携研究員を務める。

第2部 パネルディスカッション (14:10~16:00)

「地域における高校の存在意義は、 そして高校魅力化のために地域が果たす役割は何か」

パネリスト

秋田県羽後町教育委員会教育長 大久保 聡 氏
岩手県西和賀町教育委員会教育長 佐藤 敦士 氏
山形県立小国高等学校校長 柿崎 悦子 氏
青森県田子町長 山本 晴美 氏

コーディネーター

青森中央学院大学
経営法学部教授 高橋 興

対象 各県・市町村教育行政関係者及び地域活性化や地域づくり等の関係部局課室等の関係職員
高等学校教職員、一般市民等

主催 青森中央学院大学 後援 青森県教育委員会、秋田県教育委員会、岩手県教育委員会、青森県市長会、
青森県町村会、青森県PTA連合会、青森県高等学校PTA連合会

問合せ・申し込み先 青森中央学院大学 地域連携課

TEL 017-728-0131 FAX 017-738-8333 Email koukaikouza@aomoricgu.ac.jp

公益財団法人青森学術文化振興財団助成事業、あomorい県民レッジ対象講座



Ⅳ. 別科助産専攻設置記念講演会「奇跡のすぐそばにということ」

講師 荻田 和秀 氏（地方独立行政法人りんくう総合医療センター産婦人科部長）

日時 平成30年11月10日（土）13時30分～15時

会場 青森中央学院大学 学術交流会館921講義室

主催 青森中央学院大学開学20周年記念事業実行委員会

後援 青森県、青森県看護協会、青森県助産師会、東奥日報社、陸奥新報社、デーリー東北新聞社、NHK青森放送局、青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、青森ケーブルテレビ、エフエム青森

概要

女性が地域において安心して子どもを産み育てることに貢献できる助産師の育成を目的として、2018年、本学に別科助産専攻（助産師養成課程）が開設された。これにより、本学は、看護師、保健師、助産師の3つの看護職を総合的に育成する大学となった。

別科助産専攻設置を記念し、産婦人科医の荻田和秀氏を招き、周産期医療の仕事と魅力について講演いただいた。近隣の公的病院を集約化した「泉州広域母子医療センター」のセンター長・周産期センター長を兼務する荻田氏は、未受診妊婦、早産、不妊治療や先天性風疹症候群や新型出生前診断、妊婦のメンタルヘルスケアなど、周産期にかかわる症例や社会的な課題を紹介した。また、社会的なリスクを抱える妊婦の増加に対し、それを受け入れる制度や施設の不備・不足を問題視し、愛情を受けずに育った子どもの脳の発達に関する研究結果から、血のつながりにかかわらず、生まれてきた命に愛情を注ぐことの大切さを語った。

会場には、本学看護学部・別科助産専攻の学生・教員をはじめ、高校生や医療関係者など約400人の方が来場し、荻田氏の講演に熱心に聴き入っていた。



青森中央学院大学
Aomori Chuo Gakuin University

青森中央学院大学開学20周年・別科助産専攻開設記念講演

奇跡のすぐそばに いるということ

参加
無料

1998年に開学した青森中央学院大学は今年度開学20周年を迎えました。

今年度より、女性が地域において安心して子供を産み育てることに貢献できる助産師を養成することを目的として、「別科助産専攻」（助産師養成課程）を開設しました。

青森中央学院大学開学20周年と別科助産専攻の開設を記念して、人気ドラマ「コウノドリ」の主人公のモデルともなった、荻田和秀先生に周産期医療の仕事・魅力について、お話をさせていただきます。

日時 2018年**11月10日** 13:30~15:00

場所 青森中央学院大学 学術交流会館 2階 921講義室

定員 300名（一般、中・高校生、学生）
（事前にFAXまたはメールでお申し込み下さい）

講師 りんくう総合医療センター（大阪府）産婦人科部長・医学博士

荻田 和秀（おぎた かずひで）氏

香川大学医学部卒業、大阪大学大学院博士課程修了（医学博士）、大阪大学産婦人科に入局、大阪警察病院、大阪府立母子保健総合医療センター、大阪大学医学部付属病院、大阪大学産婦人科学教室勤務を経て、2008年より現職、講談社「モーニング」で連載中の漫画「コウノドリ」の主人公のモデルとしても知られ、2016年5月NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」でも放送された。

専門領域は陣痛発来機構・妊娠高血圧の解明、オキシトシン受容体の生理・病理、周産期医療システム、母体救命救急

著書に「最新版 らくらくあんしん妊娠・出産」（学研プラス）、「妊娠出産ホンマの話 嫁ハンの体とダンナの心得」（講談社+α文庫）他



主催 青森中央学院大学 開学20周年記念事業実行委員会

後援 青森県、青森県看護協会、青森県助産師会、東奥日報社、陸奥新報社、デーリー東北新聞社、NHK青森放送局、青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、青森ケーブルテレビ、エフエム青森



あおもり県民カレッジ単位認定講座、高校生スキルアッププログラム対象講座

お問い合わせ・申し込み先



青森中央学院大学 地域連携課

Tel:017-728-0131 Fax:017-738-8333

E-mail:koukaikouza@aomoricgu.ac.jp http://www.aomoricgu.ac.jp

V. 地域マネジメント・シンポジウム「これからの青森経済と地域活性化の人材育成」

日時 平成30年11月16日（金）15時～17時
会場 青森国際ホテル 3階 萬葉の間
主催 青森中央学院大学開学20周年記念事業実行委員会
共催 青森商工会議所（まちなかキャンパス）
後援 青森銀行、みちのく銀行、青い森信用金庫、青森県信用組合、東奥日報社

【講演】

武田 吉孝 氏（日本銀行青森支店長）
「青森経済のこれから」
若井 敬一郎 氏（青森県商工会議所連合会長、青森商工会議所会頭）
「地域活性化のための商工会議所の取り組み」

【事例報告】青森中央学院大学学生による地域活性化の取り組みの紹介

- ①「国際産直プロジェクトにおける取り組み」熊谷 樹（経営法学部4年）
- ②「援農サークルenの活動」上道 侑希、工藤 穂華（経営法学部2年）
- ③「青森県の将来を学生が考えるプロジェクトにおける取り組み」金谷 歩（経営法学部4年）
- ④「学生団体ベトナム風：青森県産食材を使用したベトナム料理のレシピ開発」チャン・ホアン（大学院地域マネジメント研究科2年）
- ⑤「短期海外アクト：台湾での青森文化の紹介」澤田 海翔（経営法学部2年）
- ⑥「クアウォーキングを支えようサークルの活動」栗林 正弥（看護学部3年）

【パネルディスカッション】「これからの青森経済と地域活性化のための人材育成」

パネリスト 武田 吉孝 氏
若井 敬一郎 氏
石橋 知幸（青森中央学院大学経営法学部4年）
コーディネーター 内山 清（青森中央学院大学大学院地域マネジメント研究科長・教授）

概要

地域マネジメント研究所は、大学院地域マネジメント研究科と呼応して2004年に設立され、地域社会に開かれた研究機関として、地域の経済、産業、経営、政治、行政、法律、社会、文化活動をはじめグローバルな諸問題についての調査研究活動を展開している。

本シンポジウムは開学20周年を記念して、日本銀行青森支店の武田支店長と、青森商工会議所の若井会頭に、まず県経済の現状整理と、県の産業界・経済界の取り組みについて報告いただき、来場した県内の企業関係者や一般市民、学生ら約500人とともに県経済の活性化に向けた方策を探った。

なお、シンポジウムの議論の詳細は、『地域マネジメント研究所研究年報』に掲載するので、そちらを参照されたい。



青森中央学院大学 開学20周年記念 地域マネジメント・シンポジウム
Aomori Chuo Gakuin University

これからの青森経済と 地域活性化の人材育成

青森中央学院大学は、1998年4月、「愛あれ、知恵あれ、真実あれ」の建学の精神のもとに、日本で唯一の経営法学部を擁する国際色豊かな大学として開学しました。以来、国際的な視野を持って地域に貢献できる人材を継続して育ててきました。開学20周年を記念して、地域の活性化のための人材育成についてシンポジウムを開催いたします。

日時

2018年11月16日(金) 15時～17時

会場

青森国際ホテル 3階 萬葉の間 (青森市新町1-6-18)

挨拶

青森中央学院大学 学長 花田 勝美

入場
無料

講演

「青森経済のこれから」

「地域活性化のための
商工会議所の取り組み」

講師

日本銀行 青森支店長 武田 吉孝氏

1964年生まれ、東京都出身。
早稲田大学政治経済学部卒業後、日本銀行に
入行し、人事局調査役、総務人事局企画役、
文書局企画役、文書局官財物品調達課長、札
幌支店次長、総務人事局人材開発課長、名古
屋支店次長を歴任し、2017年6月から現職



講師

青森県商工会議所連合会 会長 若井 敬一郎氏
青森商工会議所 会頭

1947年生まれ
拓殖大学商学部卒業後、青森魚類株式会社に入
社。2004年代表取締役社長、2015年より代
表取締役会長。他に青森冷凍株式会社代表取締
役、丸魚協栄商事有限公司代表取締役、あもり
食品株式会社取締役会長を兼務
2013年より青森商工会議所会頭、青森県商
工会議所連合会会長、日本商工会議所常議員、東北
六県商工会議所連合会副会長に就任。他に青森市中央卸売市場商業
協同組合、青森情報処理開発財団副理事長 他



事例報告 学生による地域活性化の取り組みの紹介

パネルディスカッション 「これからの青森経済と地域活性化のための人材育成」

パネリスト

日本銀行青森支店長 武田 吉孝氏 青森商工会議所会頭 若井 敬一郎氏
青森中央学院大学 経営法学部 学生 4年 石橋 知幸

コーディネーター

青森中央学院大学大学院 地域マネジメント研究科長・教授 内山 清

定員

500名(一般、学生)

主催

青森中央学院大学 開学20周年記念実行委員会

共催

青森商工会議所(まちなかキャンパス)

後援

青森銀行、みちのく銀行、青い森信用金庫、青森県信用組合、東奥日報社

お問い合わせ・申し込み先 青森中央学院大学 地域連携課

TEL 017-728-0131 FAX 017-738-8333 Email koukaikouza@aomoricgu.ac.jp

http://www.aomoricgu.ac.jp

あもり県民カレッジ単位認定講座



